# 文化財建造物の保存と活用

## —重要文化財旧西尾家住宅—

藤　原　　学

### はじめに

2011年４月から吹田市内本町２丁目15－11に所在する重要文化財・旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）の館長に着任し、まもなく１年が経とうとしている。最新設備をもった博物館の勤務から、築116年の文化財建造物を管理する立場になり、ある意味刺激的な一年であった。ところで、この旧邸は財務省の所管となり、現状維持が困難な状況であったが、保存を求める市民運動は、32,000人以上が署名する保存請願として結実し、吹田市は文化財としての保存を決定した。以後、同邸を国から借り受け、2005年10月に旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）として一般公開を開始した。

この間、2007～８年にかけて市教育委員会は総合学術調査を実施、関西大学文学部の藪田貫教授・大学院生中井陽一氏によって同家文書の整理と目録編纂が行われ、筆者は建築材である煉瓦及び屋根瓦の調査を行い、執筆を担当した。総合調査報告書は2009年３月に刊行され、同年12月８日に文部科学省は重要文化財に指定した。その後、吹田市が文化財保護法上の管理団体となったが、本件は一般市民による草の根的な保存運動が、文化財を救った吹田市では初めてのケースとなった。

菊花展の会場となった旧西尾家住宅

### 旧西尾家住宅

西尾家は近世吹田村三組のうち、幕府直轄領である西組の庄屋格の家柄で、同家所蔵文書では、既に正保２年（1645）以前には当地に居住していたことが判明するが、江戸期を通じた同家の実態は必ずしも明らかではない。ただ、吹田西組は宝永３年（1706）に仙洞御料地となって幕末に至るが、島下郡下の４ケ所の仙洞御料の中では最大の石高を誇り、同郡域でも重要な位置にあったと推測する。しかし、現在ここに残された近世建築は米蔵１棟に過ぎない。

壮大な威容を誇る主屋や、蔵・茶室・表門、客便所棟・庭園・待合、そして武田五一設計とされる離れ棟などは全て明治中期以降の造作で、建築史の区分でいう近代和風建築群というべきものである。特に、明治28年上棟の巨大な主屋もさることながら、京藪内家の茶室の写しである積翠庵、武田五一設計の離れ、そして各所に設けられた炉が数寄者の好みとした生活空間を表現している。

西尾家住宅の正面の素晴らしさを上げれば枚挙にいとまがないが、しかし、本住宅の特色は正面以外にも見所がある。調査のため初めて立ち入った時に、計量部屋に敷き詰められた建築煉瓦に目を見張った。煉瓦平手の調整痕と焼成などは明治期の古式煉瓦といえ、実に丁寧な施工であった。壁の組積材である煉瓦の床への施工例はグラバー邸台所くらいしか記憶になかったから、この煉瓦床に驚きを隠せなかった。

さらに煉瓦使用は明治後期～大正期へ続き、通路、台所外壁、客便所、外竈屋、瓦塀などに巧妙に使っている。和を建築の正面に据えつつ、洋を背面に革新的に導入するという、近代和風建築のもう一つの側面を見事に表現している。

**文化財建造物の活用と難しさ**

旧西尾家住宅は「吹田文化創造交流館」とも名づけられた。文化財をただ凍結保存するのでなく、新たな文化創造の場にしたいとの思いが込められている。そして、なによりも市民が様々な保存活動をしてきた経緯がある。施設は無料で観覧でき、市民ボランティアが施設ガイドを随次行っている。また、各種式典、四季折々の年中行事、また貴志康一生誕の家に相応しいコンサート、茶会や子供茶道教室、書画展など、歴史的建造物として相応しい行事に活用され、来館者は2009年度には10,769人を数え、特に、重要文化財に指定されてからは、遠来からの見学者が増える傾向が読み取れる。

築110年余という年代は、建物本体に大きなダメージが存在するのではなく、建物の維持管理上の問題によって、建物周辺部に朽損被害が発生しているといえる。そのことは、2010年11月に行われた建造物有害虫菌被害調査がその傾向を明らかにした。建築を仔細に見ると、材の朽損や大震災が原因と思える壁のクラック、壁土の劣化、有害虫菌による腐朽や穿孔など痛々しい部分が見えてくる。これは市民の保存活動を継承しつつ、本格的な修理工事を経ずに公開に至ったことによる痕跡でもある。今後、将来にわたって維持するためにも、できる限りこの時点で本格的な修復をしておかないといけない。早期に保存管理計画を策定し、文化庁の指導による保存修理工事を期待したいところである。

街あかり行事で灯火に導かれる旧西尾家住宅

施設の性格上、見学者は高齢者が多い当館であるが、秋のジャズ・ゴスペルコンサートでは、若者が大挙として押しかけて来た。また、地域密着型の公募展「墨を使った作品展」では、小学生や幼稚園児、公民館の書道グループなどが応募、会場では園児たちの賑やかな声が聞こえてきた。

若者が集まったジャズ・ゴスペルコンサート

毎年秋に行われる墨を使った作品展

西尾家住宅は生活のない建築遺構であるが、しかし文化財建造物はその地の生活を見せることを基本とすべきであろう。西尾家で何が行われ、地域の何を表現しているのかを、調査研究によって明らかにし、事業に反映させたいところである。それでも市民ボランティアによって日々生けられている花が、ささやかに生活を表現しており、この熱意を無にすることなく、より良い文化財活用施設となっていかねばと思う。

重要文化財旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）館長